

図書館だより

第 7 号

昭和 54 年 3 月 30 日

愛媛大学附属図書館

目 次

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ○人さまさま……………1 | ○医療教育用ビデオテープ目録について……3 |
| ○よりよい図書館をつくるために……………2 | ○愛媛大学記念文庫について……………4 |
| ○文献複写の申込みについて……………3 | ○学生希望図書について……………4 |

人 さ ま さ ま

法文学部長 藤 井 高 美

大学図書館は、私の院生時代にあつては、にわとり小屋的住宅を逃れて、論文を書く場であった。そのためか図書館といえば、必ずある光景が目に浮かぶ。

まだ復興に至らない戦後のどさくさ時代に送った私の学生生活はつらい惨めなものであったが、幸いにもその間に、私は論文作成に関して際立った対照を呈する二人の先達に相まみえる機会を得た。そのひとりとは前防衛大学校長の猪木正道先生であり、他のひとりとは本学の大先輩でもあり学士院賞を受けられた天野元之助先生である。

戦争の関係で25歳で大学に入学し、学生結婚をしていた私は、混乱した日本経済に適当な職を見出すこともできず、やむなく大学院で研究生活を志したものの、さて論文を書く段になってどうしてよいやらわからず途方にくれたものだ。その時懇切丁寧な助言と指導を与えて下さったのが天野先生であった。天野先生は一面識もない私の提出した拙い論文の隅々まで目を通し、厳密に筆を入

れた後わざわざ拙宅まで届けて下さった。一介の貧乏書生如きに当代一流の中国学者のにとって下さった態度に、私が感激したことは言うまでもない。

一方私の主任教授猪木先生は、当時既にマスコミの売れっ子でもあり、多忙を極めていた。それゆえ猪木先生から直接には何らの助言も得られなかった私が、二ヶ月前に手渡した論文を読んでいただけたものかどうかを尋ねた時、先生は私の態度が不遜であり、礼儀を失するものであるとして、当時結核の床に伏していた私の妻にまで厳しい叱呵を加えられた。具体的な論文指導を賜わず、叱責のみを加えられる先生に、未熟な私はその当時釈然としなかったのも無理からぬことであつたらう。

概して論文指導に際しては、手とり足とりして教え導くやり方と、突き放して独力で苦勞して書かせるやり方とがあるように思う。どちらの方法をとるかは教授の方針によりさまざまであらう

が、当時の私にとっては懇切丁寧な指導の方がはるかにありがたかったように思う。

しかし、教師生活を20年以上も続けてきた今日になって、研究者たらしにするには、結局はすべからず独力で苦勞し、道を切り拓かなくてはならないとする猪木先生の厳しい指導方針のありがた

さをしみじみ味わうようになった。というのは、厳しい学問の世界で本物になれるのは甘やかされて育った人間ではなく、齒を食いしばって刻苦勉勵した人のみであることを、遅ればせながら私も確信できるようになったからである。

よりよい図書館をつくるために

— 学生諸君の積極的協力を望む —

蒲池文雄

こどもがいた。本が好きだった。大きくなったから、本屋さんか、図書館のおじさんか、学校の先生になって、本を読んだり、並べたり、触ったりしたいと思っていた。

と書くと、へたな小説の冒頭のようにですが、このこどもが私です。この、こどもの日の夢の一つはやがて実現されます。私が学校の先生になったからです。ところで、あとになって、夢のもう一つが実現されます。私のはがらも本学の図書館長を拝命したからです。

昭和49年4月からの4年間、私はがらにもない“館長”という職責の重さにあえぎながらも、ある意味では充実した日々を送ることができました。本の山に囲まれ、どんだんはいつてくる新しい図書・雑誌類にいち早く接することができましたし、国立大学図書館協議会の理事館という立場から図書館に関する全国的なレベルの情報に接することができましたから。

というわけで、在職中の4年間、私自身はいい勉強をさせていただきました。その反面、私の至らなさから、全学のみなさん(図書館員も含めて)にはご迷惑をかけることが多かったと反省しています。停年退職を目の前にした私がこの小文を書いているのも、一つにはそのおわびの気もちからです。

大学を去ろうとしている私が、教師としての、また館長としての体験から、学生のみなさんに特に言いたいことは、結局、図書館に親しみを持ち図書館をよく利用して下さい、ということに尽きます。大学は学問の府であり、真理追求の場です

から、こんなことは今さら言う必要もないわけですが、やはり最後に言いたいのはこのことです。

図書館では、昨年、入学時に新入学生を図書館に招き、図書館利用についてのオリエンテーションを始めました。これは確かに従前よりずっとみなさんと図書館との距離をちぢめるはたらきをしました。しかし、図書館はある程度以上みなさんに近づくことはできません。図書館に来ない人はいわゆる縁なき衆生です。とにかく、みなさんの方から扉をたたいて下さい。たたけば必ず扉は開かれるでしょう。無精、おっくうがりは学問の大敵です。

以上、私は、学生は図書館をよく利用せよ、と言いましたが、私はさらに、学生は単に図書館の消極的利用者であるにとどまらず、積極的に図書館のあり方に関心を持ち、図書館づくりに協力してほしい、と言いたいです。

たとえば、熱心な図書館の利用者であれば、現在の図書館の設備とか、蔵書の傾向とか、運営の仕方とかについて、なにがしかの不満なり、希望なりがあるに違いありません。そういうものを学生から図書館なり大学当局なりに申し出、話しあうということがあってもよいと思います。むしろ、学生諸君の要望は、経費や人員の関係ですぐには実現できないものも多いと思います。しかし、学生と教職員が、大学をよくするために話しあい、意思を疎通させるだけでも意義があります。また、その話しあいが機縁となって、より充実した図書館への道が開かれぬものでもありません。小さな例ですが、現在図書館の玄関に各政

党の機関紙が展示され、よく利用されていますがこれは学生の申し出によるものです。

図書の購入についても、図書館ではできるだけ学生の希望を聞くようにしていますが、学部の教官に対しても学生の方から希望を申し出て、自分たちの意向を反映させてもらうようにしてはどうでしょうか。たとえば、毎年、学生用図書費（研究室に置くのではなく、図書館の開架室に置く図書の費用）が各学部・教養部に配分されています。この図書の選定は各学科の教官や図書館委員会で

お知らせ

文献複写の申込みについて

参考調査係

参考調査係では、研究者が学術情報を入手するための手助けとして、複写による文献の提供を行っていますが、近年この量は増加しつつあります。しかしながらこの文献複写業務は複写料金の支払い方法が複雑なこともあって、一刻も早くお願いながらも、停滞しているところがあります。

従来、文献複写料金はその都度図書館相互に送金するという方式を採っていましたが、この方式では、わずかな複写料金のためにわずらわしい手数と期間がかかったり、私費の場合ですと、複写料金よりもその料金の送料の方が高くなるという珍現象も起っていました。

文部省ではこれを改善するために、昭和54年度から国立大学図書館間の複写料金は予算の振替で行うという方式を採り、コンピュータで一括処理することになりました。これによって会計面のわずらわしい手数や期間が省けることはもちろん、一番の改善点は、私費の場合、料金を郵送する費用と手数が省け、文献入手の期間も短縮されることとなります。

新しい方式により文献複写依頼書が改められたのを機会に、本学図書館でも学外申込みの申込書を改めました。新しい申込書（相互利用申込書—図書借用にも使います）は、各学部の会計係、図書館参考調査係、各分館にあります。この申込書は2枚複写になっていますが、お申込みの際は2枚とも係に提出して下さい。1枚は後ほど複写物

学生の意向や学習研究の状況を汲みながら行っていますが、ここにも、学生の意向が直接に反映されることが望ましいと思うのです。

何だか学生諸君を煽動？するようなことになりましたが、学生諸君が真剣にはたらきかけて来たら、教職員のみなさんも快く受けて立って、相談ののってやって下さいませんか。よりよい大学、より充実した大学図書館を作るために。（かまち・ふみお、教育学部教授・国文学、前図書館長）

をお届けする際の料金通知として使用します。

なお、文献はそのほとんどが雑誌論文となっています。お申込みの際は、求める文献の掲載されている雑誌が学内にあるか否かを、お手元の「愛媛大学雑誌目録・和文編および欧文編」でご確認の上お申込み下さい。学内に所蔵する文献複写の申込みについては、従来どおり「文献複写申込書（学内国費）」をご使用下さるようお願い致します。

医療教育用ビデオテープ目録について

医学部分館で下記の医療教育用ビデオテープ（ $\frac{3}{4}$ インチ）を購入しましたので、御利用下さい。

AAO耳鼻咽喉科シリーズ

気道・食道における異物 第一部

気道・食道における異物 第二部

医療技術ライブラリー

Tracheostomy（気管切開）

Endotracheal Intubation（気管内挿管）

Venous Cutdown（静脈切開）

Lumbar Puncture（腰椎穿刺）

Thoracentesis（胸腔穿刺）

CVP Measurement（中心静脈圧測定）

Paracentesis（Abdominal）（腹壁穿開）

Arterial Puncture（動脈穿刺）

Nasogastric Intubation

（経鼻栄養ゾンデ）

Gastric Lavage（胃洗浄）

ICU—CCUトレーニングコース

循環器編 (全3巻)

循環器の解剖と生理

冠性心疾患

ペースメーカーとその臨床

人工透析

循環器の救急医療編 (全4巻)

致死的不整脈の治療

救急心蘇生法

ショック

心不全

呼吸器編 (全3巻)

呼吸器の解剖と生理

長期人工呼吸と気管切開

呼吸不全

ICU管理編 (全3巻)

院内感染

ICUと機械

ICUの臨床検査

栄養の補給

救急医薬品

意識障害

医療技術セミナー教材

末梢循環

脳卒中シリーズ

コンピューター断層撮影法と脳疾患への臨床
応用

脳卒中とは

臨床—ベッドサイドの診療—

臨床—脳幹障害の診断と脳卒中の治療—

リハビリテーションと予防

なお、テープ及びVTRの利用については医学
部分館運用係へ申し出て下さい。

愛媛大学記念文庫について

昭和53年12月～昭和54年3月の間にご寄贈いた
だいた著作図書は下記のとおりです。

西前美己

テニスン研究 中教出版 1979

橋本吉郎 堀内裕治

新化学ドイツ語辞典 三共出版 1979

学生希望図書について

昭和53年11月～昭和54年2月の間に購入した希
望図書は下記のとおりです。

カルマン・フィルター

有本 卓 産業図書 1977

地盤工学における有限要素解析

川本眺方 他 培風館 1978

写真集 愛媛の四季

渡部彰正 テレビ愛媛 1978

医学英和大辞典

加藤勝治 南山堂 1977

生きているヒロシマ

土門 拳 築地書館 1978

日本思想大系 54 吉田松陰

家永三郎 他 岩波書店 1978

旅と生活のフランス語

マリオ・ペイ 研究社 1978

加藤周一全集 3, 12巻

加藤周一 講談社 1978

創造性の科学

市川亀久弥 日本放送出版協会 1978

ロシアにおける広瀬武夫 上, 下

島田謹二 朝日新聞社 1970

マイクロコンピューター活用マニュアル 上, 下

横井与次郎 ラジオ技術社 1978

生態学入門

奥野良之助 創元社 1978

耳らっぱ

レオノーラ・カリンソン 月刊ペン社 1978

内的独白

福永武彦 河出書房新社 1978

回路網理論演習

斉藤正男 学献社 1978

愛媛大学附属図書館報「図書館だより」

第7号 昭和54年3月30日発行

発行 愛媛大学附属図書館

松山市文京町3番

Tel 0899-24-7111